



土木学会・日本建築学会 第4回合同シンポジウム
－脱炭素社会の実現に向けて－2025.12.3

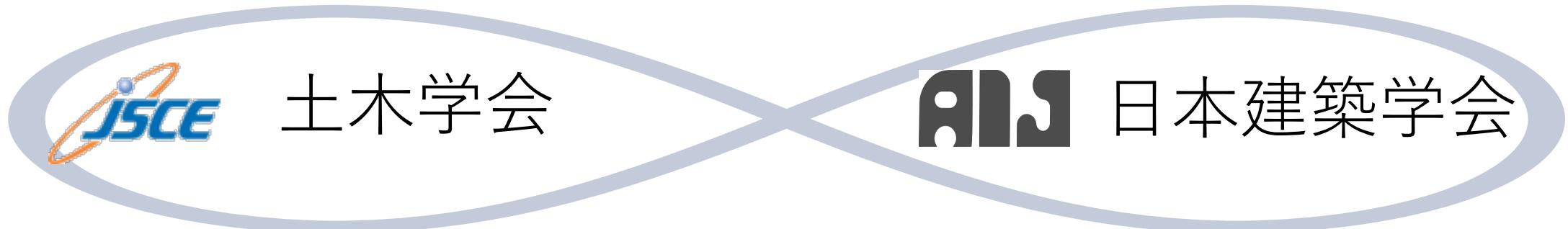
日本建築学会・土木学会連携タスクフォース

DX-WG 活動報告

報告：DX-WG 主査 蒔苗耕司（宮城大学、土木学会）



DX-WGの構成メンバー



WG主査：蒔苗耕司（宮城大学）

WG幹事：渡邊武志（パシフィックコンサルタント）

委員：秀島栄三（名古屋工業大学）

全邦釘（東京大学）

柳川正和（清水建設）

WG副査：志手一哉（芝浦工業大学）

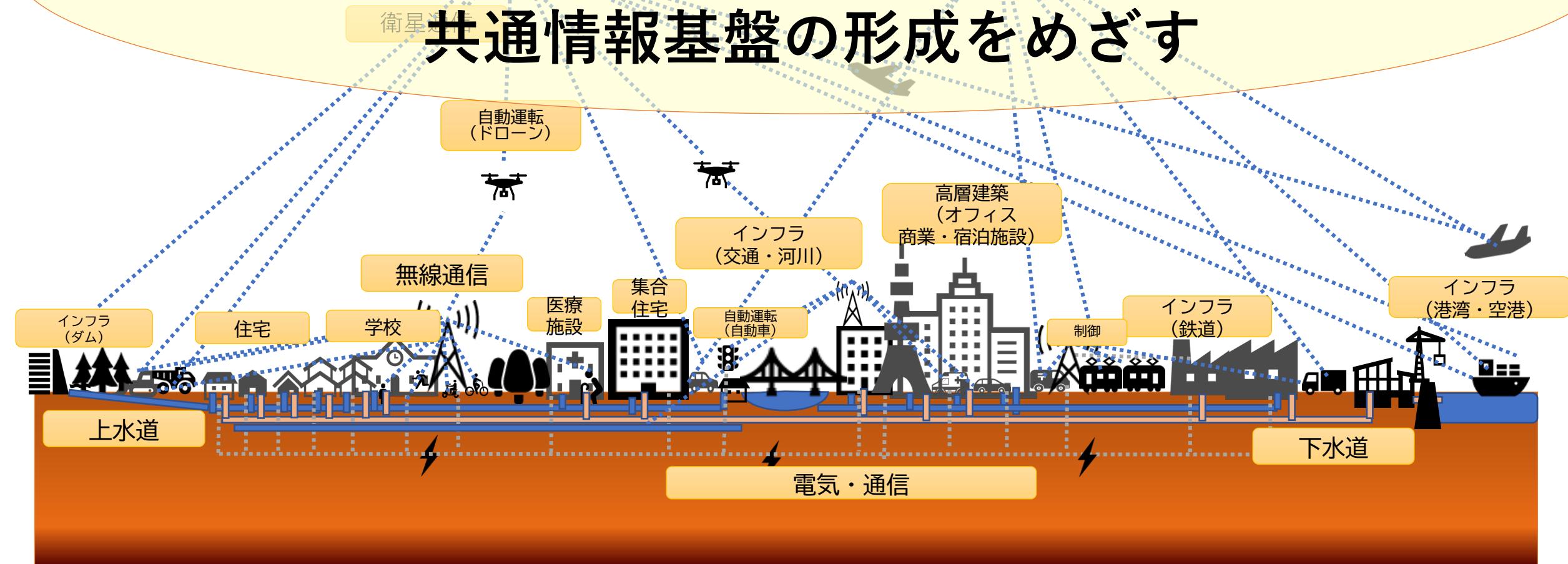
委員：池田靖史（東京大学）

石田航星（早稲田大学）

下川雄一（金沢工業大学）

中澤公伯（日本大学）

DX-WGは 土木・建築連携のための 共通情報基盤の形成をめざす



DXにかかる土木・建築の連携項目

建設生産・維持管理
プロセスにおける
DXの活用・連携

DXによる
インフラ・建築の
スマート化

ICT/DX人材育成
での連携

【2022年度～2023年度の活動】

両学会で取り組むべき項目について議論を行い、
報告書「建設DXによる真の生産性向上の実現」を取りまとめた

【2024～2025年度の活動】

上記の課題について、WGにおいて議論を進めている。
特に土木・建築の重なる施設を対象にBIM/CIM連携を中心に議論。

(2024年度は鉄道施設、2025年度は空港を対象)

生成AIの活用に関する議論も開始している

(JACIC「専門的著作物の生成AI適用に関する標準化検討小委員会」において
両学会WGメンバーを中心に合同で議論)

土木建築タスクフォースDX_WG報告書

建設DXによる真の生産性向上の実現に向けて – 縦割りを脱却した土木・建築の融合 –

真の生産性向上を目指した建設DXの実現に向けて、
土木学会・日本建築学会を中心に産官学が連携して取り組むべき課題について、
以下の4つの視点からまとめた。

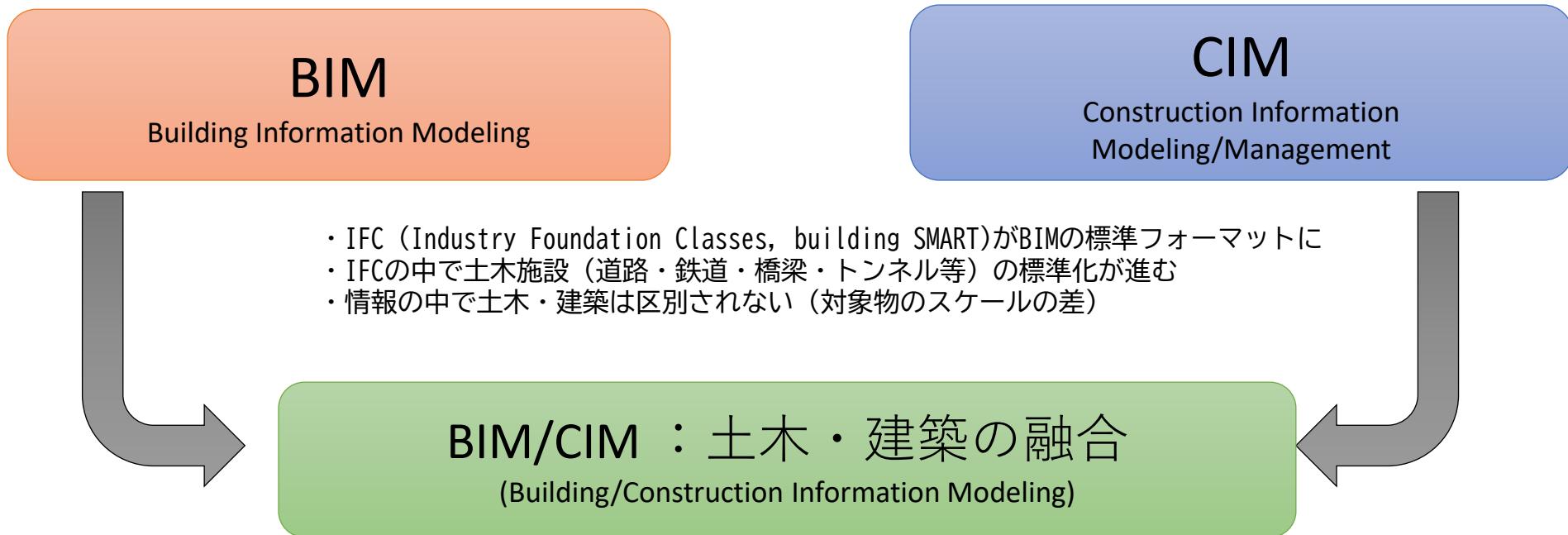
1. 生産性の高い働き方の実現に向けたワークフローの再構築
2. BIM/CIM適用の拡大に向けた標準化とデジタライゼーション
3. 都市全体のデジタルデータ化とBIM/CIMデータの活用
4. 建設分野におけるICT/DX教育の充実化と人材育成

※両学会TFのWebサイトから取得可能

https://committees.jsce.or.jp/dkTF/system/files/DX_WG%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B82023f1.pdf

<https://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2023/DXWG202311.pdf>

連携項目：建設生産・維持管理プロセスにおけるDXの活用 BIM↔CIMの連携



今後、WGで検討をすべき事項：

- ・土木・建築分野の現状課題の共有と共通する問題点の把握
(国際標準化の動向も踏まえて)
- ・問題解決の方策と今後の発展に向けて何をすべきか：他分野との連携も視野に

2025年度の活動：合同シンポジウムの開催 (2025/11/21) 『建築と土木がオーバーラップする空港を例にして』

- BIM vs CIM：「土木」「建築」で別々に進む利用環境整備
- 現実の都市空間にはBIM（建築）と CIM（土木）の境目はない
⇒**共通のBIM & CIM標準による建設データマネジメントの共有が必要**

- 土木・建築に跨る施設ではどのような運用がなされているか

2024年度は「鉄道施設」を対象として議論を行った

2025年度は「**空港施設**」に注目

建築・土木両分野に跨る「**空港**」を事例に (Horizontal & Vertical BIM)
空港を取り巻くBIM/CIMの先進的事例と国際動向、
行政機関・空港運営会社・設計会社・建設会社の取組みを把握

⇒BIM/CIM の技術動向の共有、共通課題の認識と議論を行う

開催報告

日時：2025年11月21日 13:00～17:00 会場：建築会館ホール（ハイブリッド）

参加者数：310名（対面 49名、Web参加 261名）

主な内容：

基調講演

「空港設計におけるBIM活用と海外事例」 (株)日建設計 安井謙介氏



事例発表

「空港の地盤改良工事におけるBIM/CIMの活用事例」 五洋建設(株) 堤彩人氏

「空港（土木施設）のBIM/CIMについて」 国土技術政策総合研究所 畑伊織氏 港湾空港総合技術センター 西岡護氏

「成田空港の更なる機能強化事業実施設計段階におけるBIM/CIM活用の取組み状況について」

成田国際空港(株)濱聖哉氏・パシフィックコンサルタンツ(株)二又尚人氏

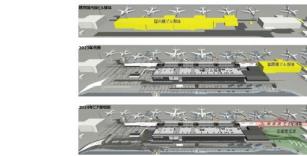
パネルディスカッション「多様な施設のデータを取り扱うことの課題とその解決」

・施設管理運営を含めて建設データマネジメントをどう進めるか
(国際規格ISO19650等への対応)

・土木・建築での座標系の統一（デジタルツインへの対応）

・デジタル化に対応した人材育成の推進

⇒BIM/CIM活用の目的を明確化する必要がある



BIM USE 01

開発の流れを関係者で共有します
建築データ／施工スケジュール



BIM USE 02

比較案の検討
建築データ／設計検討のエビデンス

「空港設計におけるBIM活用と海外事例」
(株)日建設計 安井謙介氏資料より



今後のDX-WGの活動方針

建設生産・維持管理
プロセスにおける
DXの活用・連携

DXによる
インフラ・建築の
スマート化
(生成AIの効果的な
活用を含む)

ICT/DX人材育成
での連携

上記3項目に生成AIの効果的な活用も加え、引き続きWG及びシンポジウム等での議論を通じて、
具体的な解決の方策について議論を進めていく

両学会のDX連携による成果（報告書・資料等）について情報発信を行う

各学会情報系シンポジウムでの連携（2026年度は土木情報学シンポジウムを予定）、
共通課題に関する合同シンポジウムを開催する